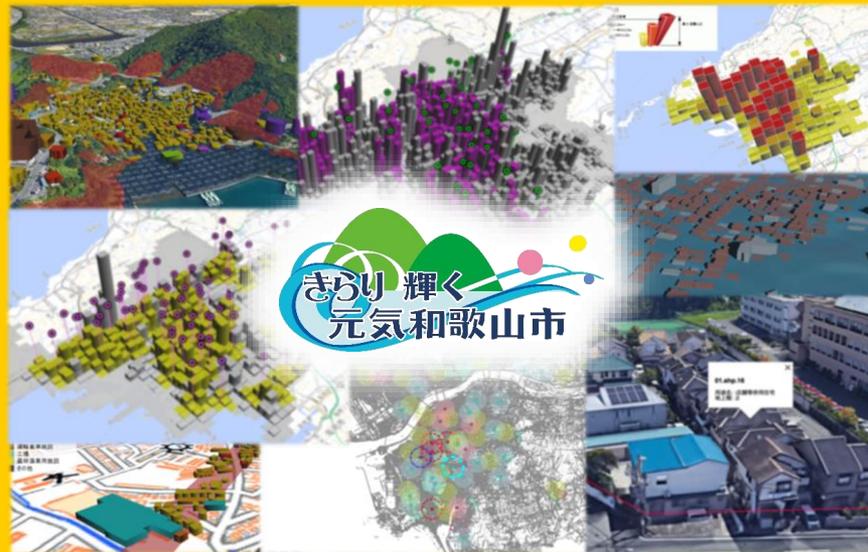


選ばれる和歌山市を目指して

～ A市の人口増加を可視化～



和歌山市 都市建設局 都市計画部 都市計画課

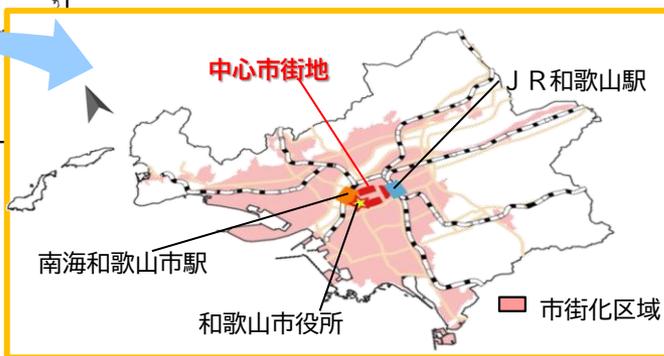
1.和歌山市について

市の概要と人口

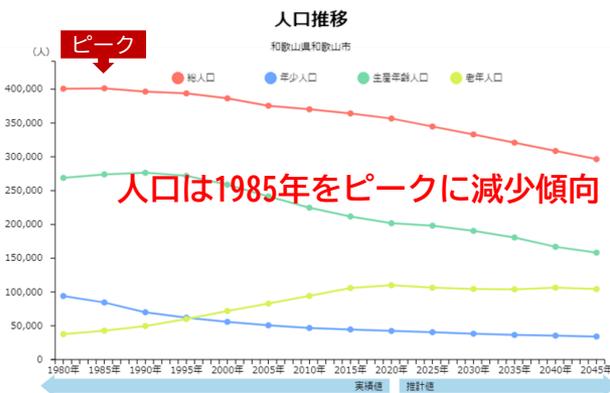


出典：和歌山市都市計画マスタープラン

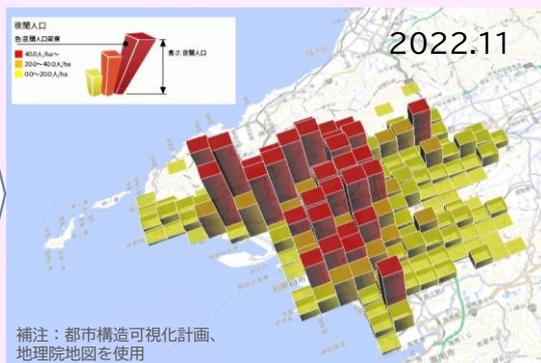
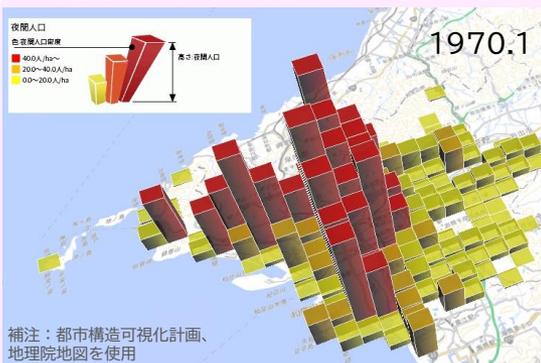
和歌山市は、和歌山県の北西端に位置する、和歌山県の県都・中核市。近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、第二阪和国道など広域幹線道路を含めた道路ネットワークのほか、鉄道はJR阪和線・紀勢本線・和歌山線や南海電鉄本線・加太線・和歌山港線、和歌山電鐵貴志川線が通っている。



補注：国土数値情報を基に作成



将来の人口分布の経年変化



市街化区域、特に中心市街地の人口減少が顕著である。2050年には中心市街地でも40人/haを下回る地域が出現している。

2. 和歌山市の人口減少

転出超過と転出先

和歌山市の転入者数と転出者数

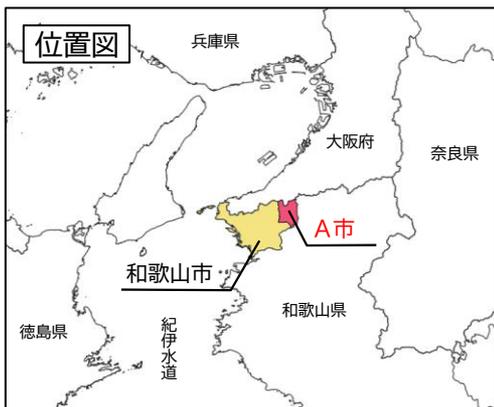
転入	20,877
転出	21,170
差	-293

補注：国勢調査を基に作成

※転入…現住地 和歌山市
5年前の常住地 ○○市
転出…現住地 ○○市
5年前の常住地 和歌山市

転出超過

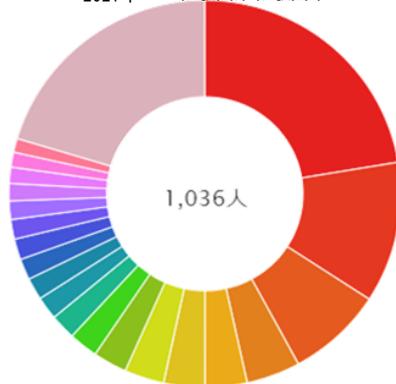
和歌山県A市について



補注：国土数値情報を基に作成

転出超過数内訳

2021年 和歌山県和歌山市

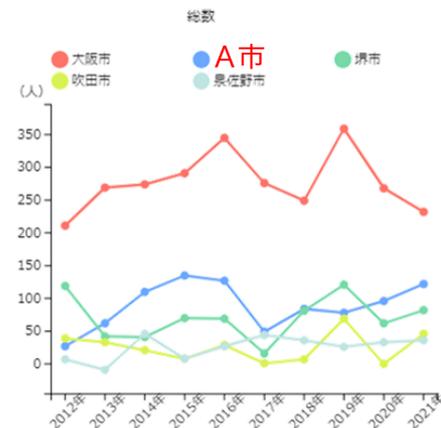


- 1位 大阪府大阪市 232人 (22.39%)
- 2位 和歌山県A市 122人 (11.78%)
- 3位 大阪府堺市 82人 (7.92%)
- 4位 大阪府吹田市 46人 (4.44%)
- 5位 大阪府泉佐野市 36人 (3.47%)
- 6位 福岡県福岡市 35人 (3.38%)
- 7位 東京都杉並区 34人 (3.28%)
- 8位 兵庫県神戸市 29人 (2.80%)
- 9位 京都府京都市 25人 (2.41%)
- 10位 東京都練馬区 22人 (2.12%)

出典：RESAS（地域経済分析システム）-From-to分析（定住人口）-

都市圏への転出超過が多い中、隣市であるA市が2位

転出超過数上位地域



出典：RESAS（地域経済分析システム）-From-to分析（定住人口）-

A市への転出超過数は増加傾向

テーマ

- ・ A市の都市構造を分析し、A市へ転出超過の要因を明らかにする
- ・ A市の将来を分析し、和歌山市が「選ばれる都市」になるための糸口を見つける

和歌山県北部に位置するA市。和歌山市に隣接しており、和歌山市や大阪府へのアクセスがよいのが特徴である。

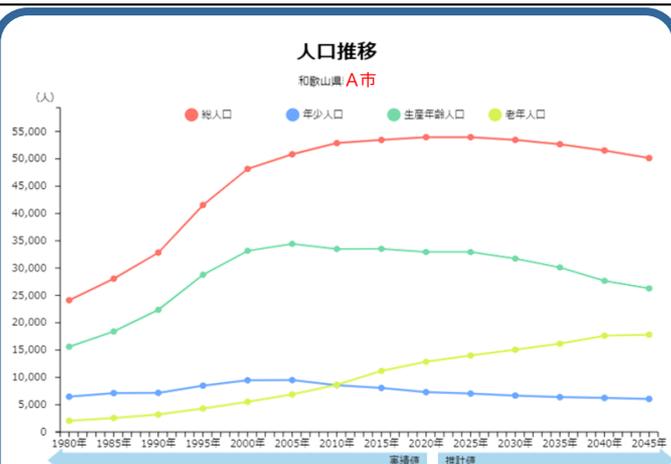
	A市	(参考) 和歌山市
面積	38.51km ²	208.85km ²
人口	53,967人	356,729人

補注：国勢調査を基に作成

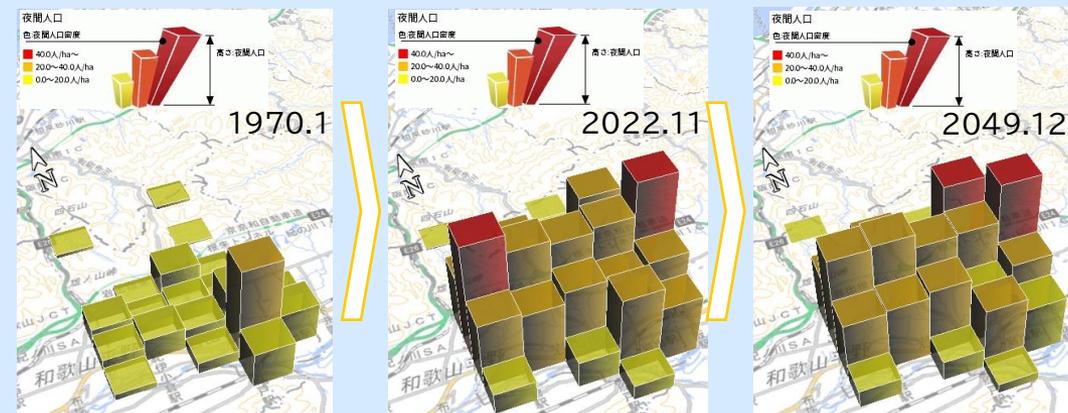
また、区域区分を行い用途地域を設定している和歌山市に対し、A市は区域区分及び用途地域の設定をしていない。

3. A市の分析①

A市の人口推移と人口分布



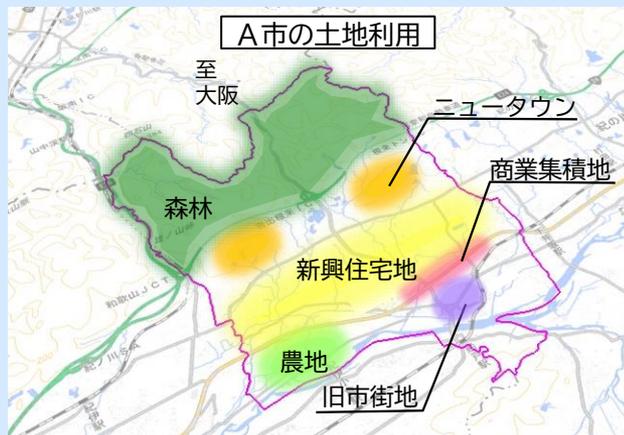
将来の人口分布の変化



A市の人口は、これまで一貫して増加しているが、**2025年頃より減少に転じる見込み**である。

また、**老年人口が急激に増加**している。2020年時点で12,849人の老年人口は、2045年には17,814人まで増加する予測となっている。

2020年	2045年
● 総人口: 53,967人	● 総人口: 50,143人
● 年少人口: 7,295人(13.52%)	● 年少人口: 6,048人(12.06%)
● 生産年齢人口: 32,952人(61.06%)	● 生産年齢人口: 26,281人(52.41%)
● 老年人口: 12,849人(23.81%)	● 老年人口: 17,814人(35.53%)



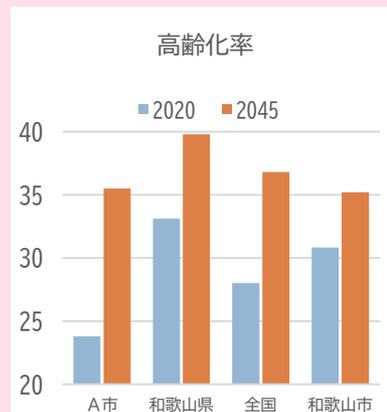
人口分布の変化を可視化することで、A市の人口増加が、**ニュータウンや宅地開発によるものであり、40人/ha未満の低密度な市街地が広がっている**ことがわかる。

また、1970年時点で最も人口が多い**鉄道駅周辺(旧市街地)**では、**徐々に人口が減少**している。

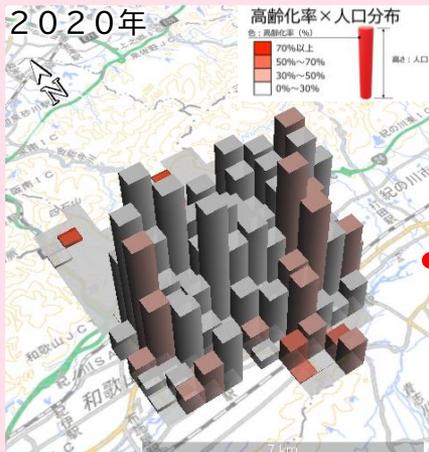
4. A市の分析②

A市の特徴を可視化：高齢化率・公共交通利用圏

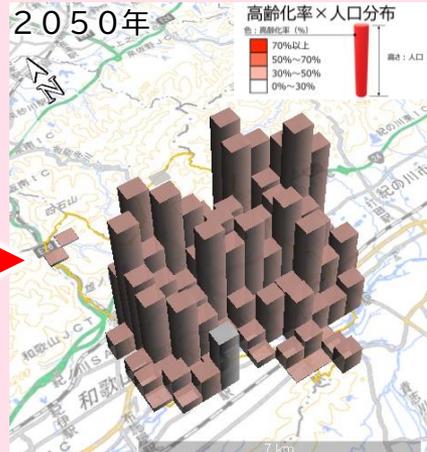
高齢化率



補注：国勢調査、社人研推計を基に作成



補注1：地理院地図を使用 補注2：国勢調査を基に作成

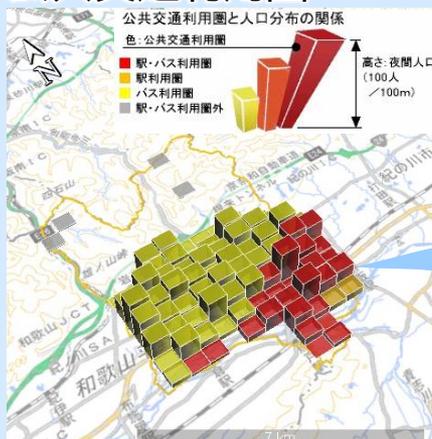


補注1：地理院地図を使用 補注2：社人研推計を基に作成

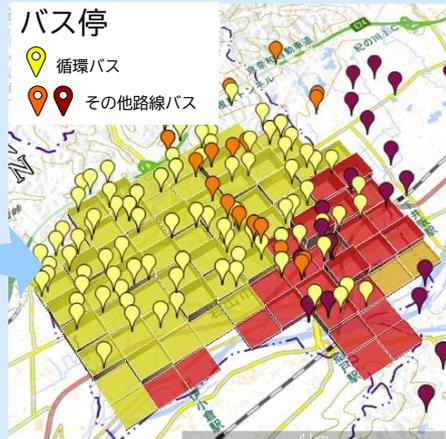
2020年時点のA市の高齢化率は23.8%とかなり低くなっているが、**2045年には和歌山市を上回る35.5%に達する見込み。**

現在の新興住宅地周辺における高齢化率の上昇が著しい。

公共交通利用圏



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

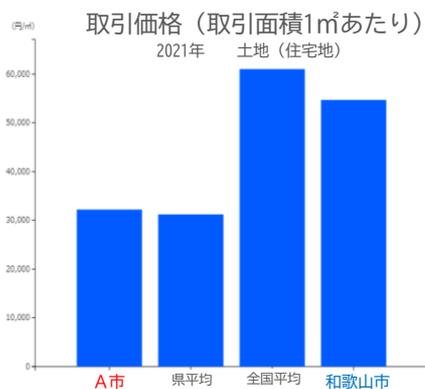
A市の大半はバス利用圏である。バス利用圏をカバーしているのが循環バスだが、始発が8時以降であり、また一日4往復であるため、便利とは言い難い。

このためか、通勤通学に公共交通機関を使う人の割合は市全域でかなり低くなっている。

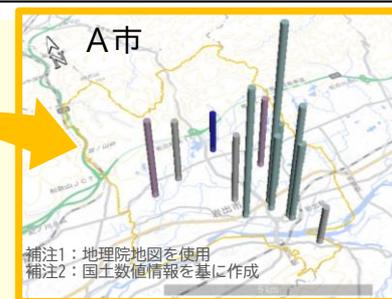
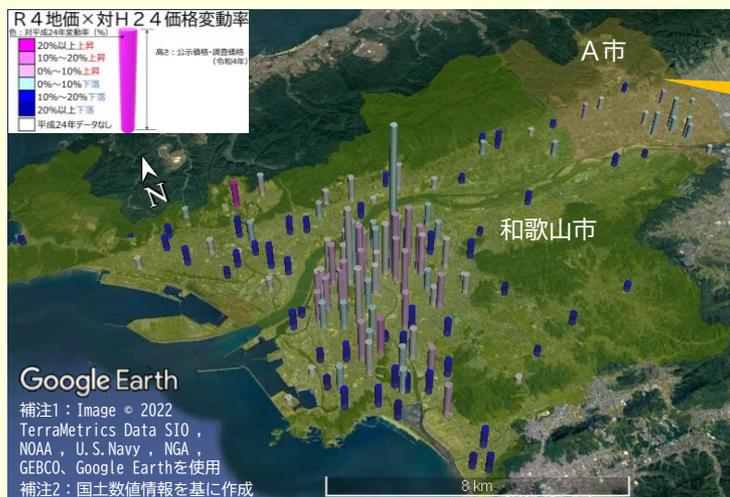
5. A市の分析③

A市の特徴を可視化：地価

地価



出典：RESAS（地域経済分析システム）-不動産取引-



A市の地価(住宅地)は和歌山市の約6割程度。
また、A市の新興住宅地周辺は、商業施設が近く、土地の価格は和歌山市内の郊外と同等であり、土地購入の面で、お得感があると考えられる。

可視化することで見たA市の特徴

- ・低密度の市街地が広がっている
- ・今後急激な高齢化が見込まれる
- ・公共交通は便利とは言い難い
- ・商業施設が近い割に土地が安い

今後、A市の人口は減少に転じる見込み

将来におけるA市の懸念点

・高齢化の進行

高齢化率が低いA市だが、2050年には、市内ほぼ全域が高齢化率3割以上となる見通しである。高齢者の増加により、公共交通の脆弱性がより顕著になる可能性がある。

・広がった市街地の低密度化

A市の平野部は農住混在の低密度な市街地が広がっている。今後、人口減少により、さらに密度が低下する可能性がある。

和歌山市が、「選ばれる都市」になるには…

- ・コンパクトなまちづくり
- ・公共交通ネットワークの維持

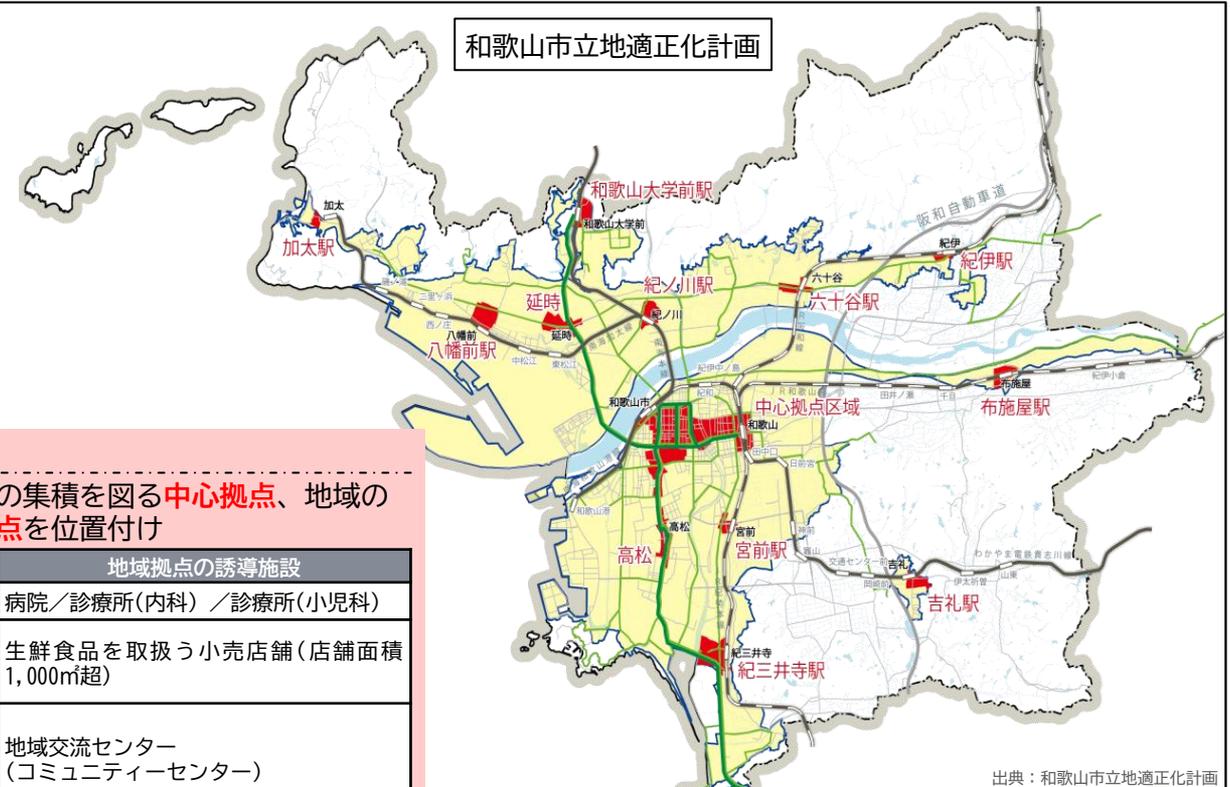
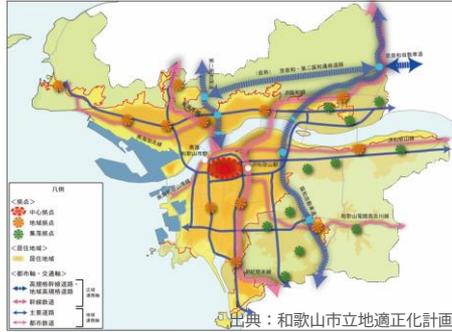
まちの持続可能性を確保

都市の魅力につながる

6. 選ばれる和歌山市を目指して

和歌山市立地適正化計画

目指すのは
多極型のコンパクトなまちづくり



都市機能誘導区域 H29.3.1～

高次都市機能や生活に密着した都市機能の集積を図る**中心拠点**、地域の生活サービスの維持・強化を図る**地域拠点**を位置付け

機能	中心拠点の誘導施設	地域拠点の誘導施設
医療	病院／診療所(内科)／診療所(小児科)	病院／診療所(内科)／診療所(小児科)
商業	百貨店・総合スーパー等(店舗面積5,000㎡以上)／生鮮食品を取扱う小売店舗(店舗面積1,000㎡超)	生鮮食品を取扱う小売店舗(店舗面積1,000㎡超)
教育文化 産業支援	大学／専修学校／地域交流センター(主たる多目的ホール：800席以上)／まちおこしセンター(主たる展示室面積：400㎡以上)／図書館(延床面積5,000㎡以上)	地域交流センター (コミュニティーセンター)
子育て 福祉	公立認定こども園／こども総合支援センター／地域子育て支援拠点施設／一時預かり機能がある施設	---

出典：和歌山市立地適正化計画

居住誘導区域 H30.10.1～

人口流出を抑制しつつ生活利便を維持するため、住宅開発等を促し居住を誘導するエリア(居住誘導区域)を設定

多極型のコンパクトなまちづくりを実現

若者から選ばれるまちづくりによる都市活力の向上を目指す

和歌山市

